

# 令和4年度岩手県農政審議会 会議録

日時 令和4年11月17日(木)  
場所 盛岡市総合福祉センター1階会議室

## 1 開会

## 2 あいさつ

千葉技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長があいさつを述べた。

## 3 報告事項

- (1) 新たな「いわて農業農村整備の展開方向」の策定について、茂田農村計画課企画調査課長が資料1により説明。

### 【質問・意見等】

#### ○ 竹本太郎委員

資料の11, 12ページの水田の大規模、担い手の集積について、担い手農業の喫緊の課題と思う。大区画化の推進は大事だと思うが、結果生産効率がどのくらい改善されるのか、事業実施後の検証が行われているのか。

地域によって経営状況が変わるので、一概には言えないと思うが、集約化したことによる効果の見えるかの取組はしているか。また、今後するのかどうか教えてほしい。

#### ○ 佐々木技術参事兼農村建設課総括課長

改良地区にアンケートを取りデータを取りまとめている。生産効率の向上についてデータは取っている。

例として、生産費で40%、労働時間で20%が減ったという地域もある。5年毎にアンケートを実施し、追跡している。

#### ○ 竹本太郎委員

追跡調査を実施しているということが重要だと考える。引き続き継続してほしい。

#### ○ 菅原紋子委員

大区画化して、農地拡大したことにより農地を手放す人もいる。整備をすると大区画化するが、経営も大規模化する必要があるのか。

これまで小規模でやってきた人が、農地が大区画化になれば農業ができなくなる経営体も増えるのではないか。

また、スマート農業に興味のある人、導入できない人が出てくると思う。スマート農業の導入を進めるのであれば、身近のものの紹介もしてほしい

#### ○ 茂田農村計画課企画調査課長

農地の集積を進め、出来る限り担い手に農地を集めるのが方針。地域の話し合いで地域に合うように進めていただくことも必要。圃場整備するには、生産コストを下げる等の事業的評価が必要のため、方向性は農地を集積していくこととしている。

スマート農業ができない人がいるというのはその通りで、自動操舵システム以外にもいろいろある。水管理システムなど、水管理の省力化もスマート農業であるため、意見も踏まえながら追加していく。

- 菅原紋子委員  
営農計画の策定を支援している。大区画化、地域でやめないように進めている。
- 千葉技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長  
圃場整備地区の中で、個別でやりたいという生産者がいる場合、大区画化しない区域を定めて実施している地区もある。  
地域計画を作る中で、地域で議論していただければよいと思う。全てを大区画化する以外にも手法はある。
- 菅原紋子委員  
大区画化は作業効率よいのは分かるが、地主の意向もあり、なかなか進まない現状もある。
- 竹本太郎委員  
13-14Pの高収益作物の導入について、コメの消費量が減っていく中重要と考えるが、地域の合意形成が現状困難。現地の反応はどうか。  
また、K P Iの記載について、なぜ指標化されていないのか。
- 茂田農村計画課企画調査課長  
高収益作物の導入については、手間がかかることもあり、大々的にやるのは難しい。作物選定も悩まれている地区も多いと聞いている。  
圃場整備が入った後の農業経営について将来的な営農方針を作る取組も始めた。普及センター等の営農担当者からアドバイスをもらう仕組みや、J A等に相談し地域として必要な作物を選定を決めている。  
指標については、なかなか設定が難しく、KPI化していない。

#### 4 その他

#### 5 閉会